

フィリピン滞在記 ⑮---最近の様々な出来事から

ルソン大学日本語教師 為我 輝忠

フィリピンにいるのもあと1か月余りとなった。11月中旬には帰国の予定である。フィリピンでのこれまでの生活には不満や嫌なことはあまりなかったが、やはり日本での生活と比較すれば不便なことや満足できなことも多い。しかし、あと1か月となり終盤近くなると、すべてのことが浄化され、良い思い出に化してしまいそうだ。

今回は、身近なところからいくつか話題を選んで、書いてみたい。それらは次の通りである。

- 知人のお子さんの洗礼式
- モンスーンの来襲
- ルソン大学で日本語を学ぶ学生を招いて日本語パーティを開く

1. 知人のお子さんの洗礼式

現在私が教えているルソン大学の日本語授業で私のアシスタントをしているドミンゴ・パスカ氏から、生後2か月になる女の子の洗礼式を8月20日に教会で行うので、出席してほしいとの依頼があった。フィリピンはカトリックの国なので幼児洗礼が主体で、プロテスタントの場合とは異なる。当日10時から始まるので、それまでに来てほしいとのことであったが、依頼した車のドラ

イバーが道をよく知らなかったため途中で何度も聞いたりしてダグーパンから教会のあるタユグまで2時間もかかり、着いたのが10時ぎりぎりであった。

教会の中に入ると、まだ何も行われておらず、パスカ氏に聞くと、他のグループの家族が来ていないので遅れるということであった。今回の洗礼式は他のグループ2組と合同で、やっと11時になって彼らが来たのですぐ始まった。こんなところでもフィリピン・タイムが顔をのぞかせていた。式そのものは40分も掛からない。司祭の短いメッセージがあり、その後洗礼式のセレモニーがあった。司祭が赤ん坊の額に聖水を浸し、何人かの方々と共に私も彼女の額に十字を切り、共に祈るというものである。この役目はGodfatherの仕事で、私はGodfatherになることを依頼されていたので、その役目を果たしたが、多少緊張した。

洗礼式の後に食事に招かれた。およそ50～60人は招かれていたのではないだろうか。フィリピンではこの行事にかなりお金をかけて行われる。パスカ氏自身も決して裕福ではないが、このような時にはそれ相当のお金を使うとのことだった。目についたのはお祝い事には定番ともいえるブタの丸焼き(レチョン)が出ていたことである。もう一つ気が付いたことはお酒が出ていないことであった。

2. モンスーンの襲来

8月14日(日)から激しい雨が降り始め、4日間降り続いた。これは南国特有のモンスーンで、台風とはまた違う。この4日間ほとんど外に出ることは出来ず、買い物などもままならなかった。当然この間はパンガシナン州のすべての教育機関は休校との通達が出され、私のルソン大学も15日から



洗礼式

17日まで授業はなかった。

4日目になって雨がようやく止んだので、外に出てみると、家の前の道路がまるで川のように泥水が流れているのには驚いた(写真)。日本でも水害時にはこのようなことはしばしば起こるので、テレビ等で見たことはあるが、私自身のことで言うと、このような災害は体験したことはないのでただ驚くばかりである。道路を歩く人は靴を履いている人はおらず、皆ゴム草履履きである。時折長靴を履いている人を見かけるが、このような人はまれである。

フィリピンでは台風、モンスーン、地震のような自然災害は毎年あちこちで起こり、その惨状を目にしているが、いざ自分が体験してみると、フィリピンの人々の災害に対する考え方や対処の仕方が我々の場合と全く異なる。彼らは災害に立ち向かうのではなく共栄共存を図っているように見える。

3. ルソン大学で日本語を学ぶ学生を招いて日本語パーティを開く

私が教えているルソン大学で日本語を学ぶ学生が今学期は100名ほどおり、前学期に比べると



雨が止んでから数日たってもこの状態が続いていた

と3倍に増えた。教室で日本語を教えるだけでなく、もっと日本の文化や習慣を紹介したいと思い、自宅に学生を招いて「日本語パーティ」なるものを7月30日、8月27日、9月10日のいずれも土曜日に3回開いてみた。現在、3ク



浴衣の着付けを終えて大喜びの3人の学生

ラス教えているので、それぞれのクラスごとに3回開催し、日本語を自由に話したり、さらに知人の藤井弘子さんや地元の日本人の協力を得て、のり巻き講習と浴衣の着付けを行った。いずれも好評であった。やはり食べ物のことやファッションは彼らの話題の中心なので、まさにぴったりであった。

一般的に「のりまき」は日本料理としてよく知られて

いるが、ただ実際に食べたことがあると言う人はそう多くはない。マニラや地方でも大きなスーパーに行くと、寿司コーナーがあり、持ち帰り用の様々な種類の寿司が販売されている。ただ値段はというと、他の食べ物に比べるとかなり高く、決して安いものではない。

実は、9月5日大学で観光学科主催の「寿司弁当コンテスト」があり、たまたま審査員に依頼されていたので、参加する機会を得たが、コンテストに出ていたのは日本語を学ぶ学生10人で、彼らの大半は私の日本語パーティに出ていた学生で、道理で上手だと感心した。

こんな風にフィリピンの生活は足早に過ぎていった。もう1か月足らずですぐ帰国するが、今までの海外生活の中でフィリピンが一番充実していたのではないだろうか。今度来る時はいつになるか分からないが、これまでとは違う旅行者として様々なものを見てみたい。